

山名・山域	奥武蔵西武秩父線沿線の山
山行目的	奥武蔵の新緑を歩く
山行期間	2016年5月14日 日帰り
参加者	2名

ルート、コースタイム

西武線西吾野駅 927・933—大滝—白滝—高山不動尊 1107・1120—関八州見晴台（高山不動尊奥院）1140・1205—黒山三滝 1315—笠杉峠 1400—顔振峠 1430・1505—吾野駅 1540

山行記録（記録性を重視し、天候、コースの状況・特徴、注意点、必要になった用具など）

見晴台という名前からくるイメージとはやや違ったコースでした。500m 登った後 400m 降り、また 300m 登り返す結構ハードな一日となりました。

西吾野駅前を右折し人々の暮らしのある里山を歩きます。途中大滝や白滝といった沢に架かる小さな滝を見物しながら徐々に高度を上げて行くと高山不動尊が見え隠れしてきます。山全体が不動尊の敷地でお堂が階段状に建てられ、なかなかの規模でした。

見晴台は古くは本堂があった頂で今は奥ノ院となっています。ここからの遠景は当に名前のおり絶景でした。南には遠く大山や丹沢の峰々が並び、別の角度で奥武蔵の山々や奥多摩が直ぐそこに見えます。秋の紅葉の頃は更に良いのではないかと思います。

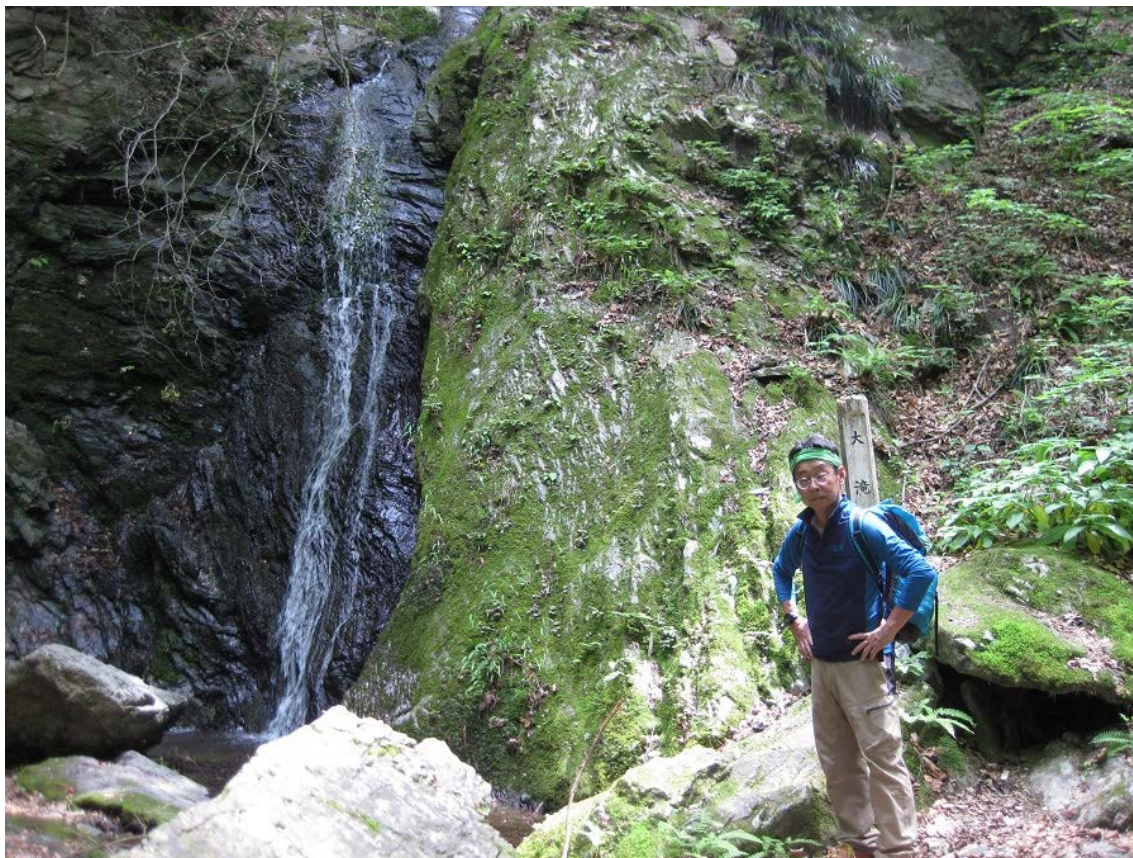
ここで大休止の後、黒山三滝に向かいました。相方が「山全体が良い香りがする」と言っていましたが、確かに山域が「丹沢などの神奈川の山とは違った女性的な雰囲気」をもっていました。

黒山三滝は観光地で、バス停からも見物人が足を運んでいましたが、行者が滝に打たれて気合を入れていました。笠杉峠への登りは沢沿いに、最後の急登が結構足にくる登山道でした。峠は舗装された林道と関東ふれあいの道が交差し、人の往来が多く深山幽谷の雰囲気とはまた違った風が吹いていました。

顔振峠は「昔、義経と弁慶が何度も振り返りながら峠を越えて行った」由緒ある場所で茶店が二軒営業していました。テラス状の店構えで景色を見ながらゆっくりと休憩することができました。

帰路は歩きやすい下り道を 40 分弱で吾野駅に着きました。オーバーユースの山域と違って登山道の抉れがなく、膝に優しい奥武蔵らしい道でした。16 時過ぎの西武線は飯能で東横線直通と繋がっており、18 時には横浜駅の喧噪のなかに居ました。天候に恵まれ「それなりに歩けた有意義な休日」となりました。

以上



滝に打たれる修行者



Web から地図をお借りしました。